

文学館だより

平成31年 3月 1日
若山牧水記念文学館
TEL 0982-68-9511
文 責 日 高

わがころ澄みてすがすがし三月のこの大雨のなかを歩みつつ

大正9年詠 「くろ土」収録

平成30年度 牧水没後90年を振り返る

牧水没後90年を迎え、一年を通して数々の記念事業が開催されました。牧水先生を愛してやまない方々にどの会場も埋め尽くされ、惜しめない拍手が送られていたことを思い出しています。また、当文学館にも全国からたくさんの方々にご来館いただきました。牧水没後90年喜志子没後50年を迎えたこの一年を振り返ります。そして新たに始まろうとしている来年度へつなげていきたいと思っています。

【日向市・日向市東郷町若山牧水顕彰会 主催事業】

9.16（日）牧水祭前日祭

【日向市駅前歌碑祭】

「哉山河～」歌碑前にて開催。元顕彰会長 東村吉市氏による献歌に続き、牧水短歌朗詠の会による朗詠のなか献酒が行われた。



【牧水うたの饗演】

地元コーラスグループ5団体が出演し、牧水のうたを披露。箏の演奏が加わり坪谷川の流れを演出、寺迫小学校の朗詠の場面も見られた。



【短歌オペラ『若山牧水 海の声』】

台本 伊藤一彦館長、作曲 演出 指揮 仙道作三氏による短歌オペラが上演された。牧水、小枝子、喜志子、平賀春郊役の4人が熱唱した。



【日向市東郷町若山牧水顕彰会 主催事業】

9.17（月）第68回 牧水祭

【歌碑祭】

生家横夫婦歌碑前にて開催。坪谷在住岩下富男氏の短歌朗詠のなか、東郷学園生巫女の献酒に始まり、献酒が続く。毎年、命日に行われている。



【牧水を偲ぶ会】

坪谷小学校全校児童 17 名による牧水のうた斉唱より第2部開幕。今年は伊藤館長、俵万智氏、大口玲子氏、吉川宏志氏と牧水ゆかりの4歌人座談が実現。



【懇談会】

最後は、酒と「牧水御膳」を囲みでの昼食会。今年は早稲田大学校友会宮崎県支部の方々による早稲田大学校歌の大合唱をきくことができた。



【若山牧水記念文学館 主催事業】

【企画展 牧水の花鳥風月】

牧水が愛した自然を「花展」「鳥展」「風展」「月展」とし、それぞれを詠んだ牧水のうたを直筆とともに展示。前年～12月23日



【「牧水のうた」展】

県内の高校に勤務されている書道の先生方の「牧水のうた」展を開催。23点の作品が一挙文学館に並んだ。7月31日～8月19日



【記念切手シート発行】

牧水が通った坪谷尋常小学校など10枚の写真を82円切手シートとして制作。1シート1,300円で販売。（在庫あります）



【若山牧水賞運営委員会 主催事業】

【牧水が愛したふるさと トークイベント】

牧水賞受賞女性歌人栗木京子氏、小島ゆかり氏、米川千嘉子氏、俵万智氏、大口玲子氏が一堂に会し、牧水に思いを馳せた。伊藤一彦館長講話、牧水合唱団合唱も催された。（延岡市）



【そのくろこうそん 榎倉香邨の書 —ふるさと—】

牧水短歌を書く現代最高峰のかな書道家榎倉香邨氏の個展が宮崎市で開催された。掛軸をはじめ屏風等全54点が並んだ。今回、展示された作品の中から一部文学館への寄贈が決まった。



第23回若山牧水賞受賞歌人 穂村 弘さん 来訪



【牧水が生まれた生家縁側で】

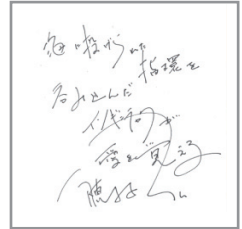
終バスにふたりは眠る紫の(降りますランプ)に取り囲まれて
蛇っばい模様の筒に入れられた卒業証書は桜の匂い

1月31日(木)、若山牧水賞授賞式に臨まれた穂村 弘さん。
翌2月1日(金)は坪谷を来訪されました。

生家では、一步一步踏みしめるように歩き、牧水が生まれた縁側に寝ころがってみたりさすってみたりと、かつての牧水を感じていらっしやいました。「これはご利益あるかな!」の思いが叶うことを私どもも祈っています。

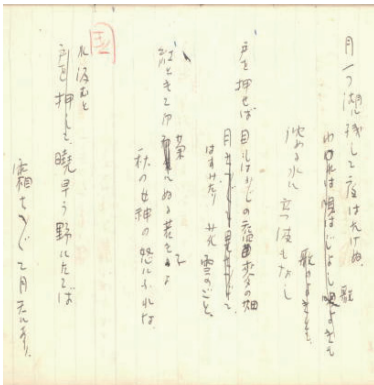
続いて文学館へ。脳裏に焼きつけるかのように展示品ひとつひとつを
ご覧いただきました。牧水歌集『別離』と『みなかみ』を受賞のお祝い
に奥様から贈られたという穂村さん。第1歌集『海の声』と第2歌集『獨
り歌へる』を實際、手に取っていただきました。

時間が押し迫るなか、受賞歌集『水中翼船炎上中』と色紙にサインを
いただきました。今年は展示が終了しましたが、毎年この時期が近づくと、
歴代受賞者全員の写真パネル、受賞歌集、自筆5首原稿、サインが
並びます。それまで穂村さんの一式を含め、大切に保管します。



【穂村氏サイン】

企画展『文学ノート』拝見 開催中 3月31日まで



『文学ノート』(一部抜粋)

牧水が延岡中学校時代(明治32年～明治37年在席)に書いたと思われる『文学ノート』が文学館に大切に保管されています。作品は黒万年筆で書かれ、青や赤で推敲を重ねた跡もそのまま残されています。全集に収録されていない作品もあります。短歌と出会い、文学に心酔する牧水をかいま見れる貴重な資料といえるのではないのでしょうか。

『文学ノート』約12cm×19cm

短歌 277首
短い詩や俳句 57篇
長詩 5篇
散文 28篇

今回の企画展は、『文学ノート』原物と『文学ノート』全ページを一挙公開し、その翻刻を示しました。

3月31日(日)まで企画展示室にて公開しています。

牧水母校作品展 開催中 こちらも3月31日まで



坪谷小学校児童短歌作品展からスタートして4年目を迎えました。2年目から延岡高校が加わり、昨年から早稲田大学短歌会が加わり、文字どおり牧水母校作品展として確立しました。牧水短歌とともに平成の児童、学生たちの短歌をお楽しみください。こちらは無料でご覧いただけます。前述の企画展と合わせて、皆さまのご来館をお待ちしております。

【坪谷小学校児童(つばやっ子)の作品より】

いねかりでザクッとおどがなりひびくみんなでザクザクあせがたらたら
まんまるの月を手のにせ持っているしょうゆせんべい口に合わせた

1年生
4年生

【延岡高校生の作品より】

手を振って気づいた時のドキドキを知らずに君は手を振り返す
君に告ぐ「勝ったらジュース」言い訳にテストの点より気にする進展

1年生
3年生

【早稲田大学短歌会の作品より】

声に声重なれば秋はじまってガードレールに落ちる月光
地図上の海を掬ひて塗るやうな心地をこのむコリアンコスメ

1年生
3年生